

## 別府市街における盃状穴

佐藤 勉

### 一、はじめに

子供の頃、近所の日出若宮八幡社で遊んでいて、境内や参道にある燈籠や手洗石にいくつも丸い摺鉢状の穴があるのを見て不思議に思っていた。活動範圍が広がるにつれ、あちこちの神社にも同様の穴があるのを知った。

この穴はいったい何であるのかと土地の古老に尋ねて見ると、「独楽の芯を研いだり、木や草の実を摺り潰して遊んでいた穴である」と話してくれた。しかし自分達があけたものではなく以前からそこにあったものであったと言う。このような記憶を持っていたのは、大正末生まれ以前の人しかおらず、以前からある穴の穿穴方法・理由らしきものは聞き出すことが出来なかった。しかも燈籠や手洗石などが江戸時代中期に造られたものに多く穴が発見されており、わずか二〇〇年前後の間に子供達

が群がって穿穴したとは到底考えにくい面がある。

この不思議な穴について考察してみることにする。

### 二、盃状穴について

柳田国男の『女性と民間信仰』の中の「石の枕」の項で姥石と呼ばれる石について述べられている。これによると、「姥石という老女に似た大きな石と、小さな石が信仰の対象になっており、小さな石には窪みまたは穴が真中にあり、臼石とも呼ばれていて、神と交通し得る呪術者が、その石を枕にし、穴に耳を接すると霊の音が聞こえる。」とある。となるとこの穴はある呪術的・宗教的目的を持って穿かれたことが考えられる。

また、『えとのす』誌の第七号に、韓国ソウルの慶熙大学の横龍渾教授の「韓半島先史時代の性穴考」という論考がある。これによると「性穴は支石墓や石棺の蓋面や、巨石・崖などに刻まれた岩刻画などにあらわれ、韓国全土および北欧スカンジナビア半島などにも分布している」とい、石または円棒などを使い、擦りながら穿穴した」という。

昭和五十五年夏、山口市の神田山古墳で同様の穿穴が発見された。これについては、山口市教育委員会編集の報告書『神田山石棺』の中で、梅光女学院大学の国分直一教授が「盃状穴の系統とその印象的意味」という、論考を載せている。これによると、山口市大内の神田山古墳第一号石棺の蓋石上面に、直径が二・三センチ、深さが〇・五〜一・五センチの丸い盃状の窪みが約二十一個見られると報告されている(図1参照)。この窪みはその形状から「盃状穴」と教授は呼んでいる。この論考を読んで、あの神社の穴と非常に類似しており、これらも

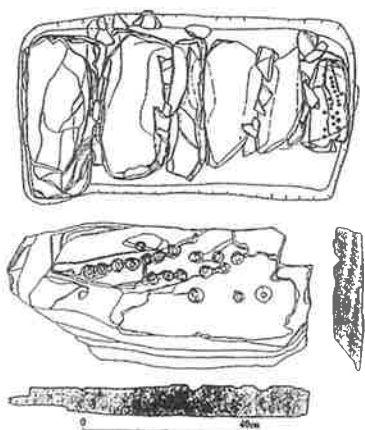


図1 上 山口市神田山第1号石棺蓋石の配石状況  
 右端の蓋石上に多数の盃状穴が施されている  
 下 同上 右端蓋石の拡大図(松岡睦彦氏原図)

「盃状穴」と考えても差しつかえないと考えられる。この論考は『海上の道』、『盃状穴考』にも再録されている。国分教授によると、「再生と不滅の象徴を目的とした微候で性シンボルを象徴しているものと考えられ、そうした点については、各国研究者の間でも一応意見の一致をみていると理解してよい」とある。

さらに盃状穴には二つの系統があり、神田山古墳のように石棺に、福岡県三雲遺跡の弥生前期の支石墓の蓋石などに発見された盃状穴のように、縄文から古墳時代にかけて穿穴された一義的なものと、鎌倉から江戸時代を中心として大正あるいは昭和初期にかけてまで穿穴された、二義的なものの二系統に分けられる。これについては表1を参照されたい。

### 三、別府市街における盃状穴

別府市内には多くの神社があるが、これらには、先述の二義的な盃状穴があることが確認できるので、その分布と数量を調査してみた。尚、実相寺天神畑古墳や太郎次郎塚古墳などの石棺などでは一義的な盃状穴は確認す

ることができなかつた。

表IIは、別府市街における神社での盃状穴の分布である。ではいったい何の為に盃状穴は造られたのであろうか。豊後高田市草地の安藤信郎氏(七五才)によれば、「その年の月数にあわせて、一二ないし二三の穴を神社の境内にある石造物に穿穴し、油と灯芯を入れ火をともし、消えた順から凶から吉と占いを行った、と伝えられている」という話をうかがった。このような事例は、別府でもあるのではないだろうか。ご存知の方は、是非とも著者までご教示ねがいたい。

四、おわりに

今回、別府市街における盃状穴の分布を調査して、燈籠などにあつた盃状穴が、コンクリートなどで埋められてしまつて確認できなかった神社が何箇所あつた。これは盃状穴の意義が忘れられ、単なる瘍として扱われた為と考えられる。しかし、一見瘍と見える盃状穴は、一昔以前の私たちの民間信仰の貴重な遺物であることから、今一度認識する必要があると思われる。

表I：別府市街の盃状穴分布

神社名	所在地	方位																		
		東	南	西	北	南東	南西	北東	北西	その他	その他									
1 正安神社	吉原町																			
2 八幡宮神社	西 区																			
3 神楽神社	堀江町																			
4 平塚神社	中橋町																			
5 八幡宮神社	中橋町																			
6 藤崎大神社	中橋町																			
7 正興神社	堀江町																			
8 石塚神社	石塚町																			
9 八幡神社	堀江町																			
10 天降神社	堀江町																			
11 神楽神社	堀江町																			
12 中津川神社	中津川																			
13 天降神社	小 高																			
14 藤崎神社	堀江町																			
15 正安神社	堀江町																			
16 正安神社	堀江町																			
17 藤崎神社	堀江町																			
18 八幡神社	堀江町																			
19 藤崎神社	堀江町																			
20 天降神社	堀江町																			

表II：盃状穴分類表

年代	盃状穴	
	一時的盃状穴	二時的盃状穴
年 代	原始・古墳時代	前中期 後中期
発生・消滅時代	発生・古墳時代	鎌倉-江戸初期 江戸中期-明治・大正頃
発生や不滅を願う、出産の兆候を願う、結婚の祈願を願う、健康や中興より位分った本来の意図を望んでいる。	死者の冥生を願う、生業の繁栄を願う、冥妻が冥記する願、死者の冥生を願う行為から日元的演習として執儀。	個人の祈願 個人の祈願 結婚の祈願 北条の祈願形式 (祈願・冥妻) 子供の守護
盃状穴の目的	山岳物の遺跡 平地の遺跡 洞窟内の遺跡	墓石の設置 墓石の設置 有銘石・無銘石及び 遺物の設置
注	○杯蓋及び石臼の用途があつたと思われる石臼類は除く	○古墳や墓石からの出土品に穿れた盃状穴に対する遺言や心算からの行為。(遺言の設置) ○死者の冥生を願う行為。○水鏡のあるものに対する設置。○古墳や墓石による出土品(石臼類)にある盃状穴の形を模倣と死者の冥生を願うことから行なつた行為。(冥妻行) ○村々・町屋や墓石の導入や中興より位分った本来の意図を望むた。(冥妻行) ○トリアマヤを行つたり、墓の竹などを作つた。遺言や祈願の行為が次々とした場合が多い。
記		

註

- 1 柳田国男 「石の枕」 (『定本柳田国男集』第  
八巻 「女性と民間傳承」 筑摩書房 昭和五六  
年 四一四〜四一五頁)
- 2 黄龍渾 『韓半島先史時代の「性穴」考』 (『え  
とのす』第7号 新日本教育図書 一九七六年)
- 3 山口市教育委員会編 『神田山石棺』 (山口市埋  
藏文化財調査報告書 第12集) 一九八一年
- 4 国分直一監修 『盃状穴考』 (慶友社 一九九〇  
年) 所収 国分直一「盃状穴とその象徴的意味」  
一八頁の図による。
- 5 国分直一 『海上の道』 福武書店 一七八六年  
一三二〜一三九頁
- 6 国分直一監修前掲書
- 7 福岡県教育委員会 『三雲遺跡』 一九八〇年
- 8 国分直一監修前掲書所収 三浦孝一 「盃状穴考」  
八一頁の表による

参考文献

- 『定本柳田国男集 第八巻』 柳田国男著 筑摩書  
房 一九八一年
- 『柳田国男全集10』 (ちくま文庫) 柳田国男著  
筑摩書房 一九九〇年
- 『えとのす』第7号 新日本教育図書 一九七六年
- 『海上の道』 国分直一著 福武書店 一九八六年
- 『神田山石棺』 (山口市埋藏文化財調査報告書 第  
12集) 山口市教育委員会編 一九八一年
- 『盃状穴考』 国分直一監修 国領駿・小早川成博  
編集 慶友社 一九九〇年
- 『列島の文化史 7』 網野善彦・塚本学・宮田登  
編 日本エディタースクール出版 一九九〇年
- 『三雲遺跡』 福岡県教育委員会編 一九八〇年

石垣原合戦の史跡について

矢島 嗣久

豊後速見郡における石垣原合戦とは、慶長五年(一六